～誰もが住み続けたいまちに～

『ふくしのまちづくり町民サミット』開催

皆さんで育んでいく施設に
利用定員は45名に見直し

12月６日（金）公民館恵み野ホールにおいて、こどもからお年寄りまで愉しめる福祉施設の整備を考える、「和寒町ふくしのまちづくり町民サミット」を開催しました。

【奥山町長あいさつ】

今年も様々な機会で延べ300人の方々に参加いただきました。そこから出された町民の皆さんからの様々なご意見を参考にして事業構想や建物の計画がまとまってきました。今日も含め皆様のご意見・ご質問をいただきながら、このまちづくりをしっかりと前に進めていきたいと考えています。

【中核となる福祉施設について】

新たな福祉施設の整備と運営を担うこととなる社会福祉法人ゆうゆうの大原裕介理事長がこれまでの経過と基本構想の５つのビジョンについて説明。

「計画している特別養護老人ホームは建て替えだけではなく、子どもからお年寄りまで愉しめる拠点に」「色々な方々の力を借りながら、色々な方々が出入りする開かれた特別養護老人ホームに」「愉しいまちを作るためには、５つのビジョン（次ページ参照）を軸に町民の皆さんと拠点づくりを育んでいきたい」と語られました。

施設の基本設計を手掛けている teco 株式会社の金野千恵代表取締役から、これまでいただいた意見や芳生苑健楽苑の職員の皆さんによる現場目線での検討を踏まえた建物の全体像をはじめ、部屋の配置模型や平面計画図が示されました。

ゆうゆう
大原理事長

新たな福祉施設には次のような機能を設けることが報告されました。

- ○**『特別養護老人ホーム』**　利用定員45名
- ○**共生型短期入所介護（ショートステイ）**
  入退去のタイミングや入院などで空いている部屋を利用し短期間の預りサービス
- ○高齢者以外に障がいをもつ子どもや大人が利用できる**共生型通所介護（デイサービス）**
- ○**訪問介護、訪問看護、居宅介護支援事業**
- ○**障がい者就労継続支援Ｂ型**
- ○年齢を問わず絵画や工作などで使える**『創作スペース』**
- ○町民が勉強や仕事に利用できる**『ワークスペース』**
- ○キッチンを備えた**『食の拠点』**
- ○60～100人ほどが集まれる**『中央広場』**
- ○土間スペースや**『ファーム広場』**

※施設の居室以外は子どもたちも利用できる空間に

特別養護老人ホームの
利用定員を見直しました。

施設での丁寧なケアを実現するため、人員の配置を効率化し、職員の夜勤負担軽減や孤立化防止を図っていきます。

【当初】
１ユニット12名×４ユニット＝48名
【見直し後】
１ユニット15名×３ユニット＝45名

和寒町ふくしのまちづくり基本構想

詳しくは町のホームページ
（基本構想、概要版）

≪基本理念≫

共愉（きょうゆ）するまちを創造する。

≪基本方針≫

○お互いを想い、愉しいまちづくりを追求する。
○誇れるまちとなる実践を展開する。
○誰しもが安心して住み続けることができる地域福祉を展開する。
○自分たちで考え自分たちで行動する。

≪ビジョン≫

1　最期まで暮らし続けることのできる特別養護老人ホームの体制構築
2　あらゆる住民が安心して在宅生活を送ることができる在宅支援サービスの体制構築
3　子どもたちが大切にされる機能の構築
4　あらゆる住民が活躍できることを実現する「しごとづくり」機能の構築
5　和寒町の特色である農業・食文化を推進する機能の構築

【説明に対する質問と回答】

Q．特別養護老人ホームが 45 部屋だと町民は入れないのではないですか。

A．現在の利用状況（12/１現在：46名、待機８名）から、当初は50床規模での検討も大きいとの意見がありました。85歳以上の人口推計から現在の利用者と同等の数で計画していますので、利用希望にはしっかりと対応します。施設利用前の受け皿として「かたくり荘」を活用することも検討しています。

Q．ショートステイ専用の部屋が無いがどうするのですか。

A．現在の利用状況（１日平均１～２人利用）から、専用の部屋を用意せず、入退去のタイミングや入院で空いている部屋を利用することとしています。（空床利用型）
　利用したいときに空きがない場合は介護支援専門員（ケアマネージャー）が他施設を含めて利用調整を行います。

Q．子どもたちが自由に使える空間には、どうやって子供を連れてくるのですか。

A．この施設の中にどのようなものや、どういったことができるようになれば良いか、子どもたち自身やお子さんを育てられているお母さん方に伺い、皆さんと一緒に研究していきたいと考えています。

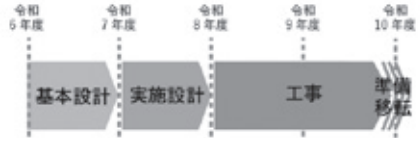
Q．人の出入り自由な施設だと、子どもや高齢者の安心をどう守るのですか。

A．「何かあったら困るので禁止する」と、あらゆるものを制限してしまうと、子どもたちの自主性を妨げてしまいます。子どもたちがやりたいことを全て実現するのではなく、様々なリスクや事象を想定しながら、ルールやマニュアル等を皆さんとの対話の中で決めていきたいと考えています。

【意見交換】

　参加者はグループに分かれ、「新しい施設での過ごし方や活動について想像してみよう」をテーマにそれぞれ熱心に意見を出し合いました。
　人が多く集まることができる『中央広場』を使ったモルックや懐かしい映画上映、こども食堂、クリスマス会、ダンス発表、さらにはストリートピアノ、そば打ち、フルーツの木植栽など様々なアイデアが出されていました。
　大原理事長からは、「自然と人が集まるような施設をめざして一緒に皆さんのアイデアを形にしていきたい」とコメントがあり、奥山町長から「皆さんで作り上げていく施設やサービスにしていきましょう」と呼びかけました。

▼今後のスケジュール



お問合せ先：保健福祉課　地域福祉推進室　32-2000